

## ナス（露地）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	◇			◆								
主な作業	播種	鉢上	接ぎ	定植	収穫							

### 「庄屋大長」

草姿は立性で、早勢、耐暑性とも強い。果長は25~40cmで果形は新長崎長や松山長タイプの細目の長ナス。果色は光沢のある黒紫色で、ヘタ下の首部の色も紫になる。

### 「台木」

台太郎、トレロ、トルバム・ビガー、トナシム等を使用する。

#### 台木「台太郎」

半身萎凋病抵抗性は劣るが、青枯病抵抗性、草勢の面で優れる。

### 2 育苗

#### (1) 播種

播種は2月上旬~2月中旬に行い、10a当たり穂木、台木とも40畳用意する。

播種箱を用いる場合は10a当たり穂木用、台木用ともそれぞれ6箱用意する。

播種の方法は、1箱に10~12条、1条当たり40粒内外を播種し、5~6mmの覆土を行う。

#### (2) 仮植

穂木は本葉1~1.5枚の頃、株間10cmに移植する。床面積は本圃10a当たり20m<sup>2</sup>が必要になる。台木は径15cmのポリポットに鉢上げする。

#### (3) 接ぎ木

播種後30~35日で行う。

#### 温度管理

	昼 間	夜 間
発芽温度	30~35°C	20~22°C
発芽後温度	30°C	25°C

#### (5) 育苗管理

##### ①水管理

灌水は水温に注意し、ハウス内の温度が上がる晴

## 技 術 体 系

### 1 作型の特徴

約90日の生育期間で一番花開花前後の苗を定植し、初霜まで収穫する。青枯病、アブラムシ、スリップス、ハモグリバエ、コナジラミ等の病害虫防除に努める。

### 2 適応地域

水田地帯

### 3 栽培条件

- (1) 防風ネット
- (2) 灌水施設

### 4 経営目標

- |            |                |
|------------|----------------|
| (1) 収量     | 8 t/10a        |
| (2) 投下労働時間 | 1 0 0 0 時間/10a |
| (3) 所得率    | 4 0 %          |
| (4) 経営規模   | 2 5 a          |

(家族労働力2人の場合)

## 栽 培 技 術

### 1 品種と特徴

#### 「筑陽」

秀品率が高く、初期収量も多い。8月の高温期に草勢低下を招きやすいため、地温降下などに努める。果長は20cm前後になる。

#### 「黒船」

草勢は強く、耐暑性に優れ、半開帳性で果実は濃黒紫色で光沢があり、果長は27cm前後になる。

天日の午前10時頃より行う。1回の灌水量は少なくし、夕方には床土の上面が乾く程度に与える。

## ②過湿対策

天候に応じた灌水を行う。

## ③光線管理

光線の透過を促すため、特に午前中は最大限に光が入るよう、被覆物の除去を行う。

(良質苗の条件)

- 軟弱徒長せず、茎の大きさと節間が適度の株。
- 葉幅が広くなく、葉肉厚く、葉に艶のある株。
- 太根になる素質のよい根が均一に広がり、根色が白く、地上部茎葉とのバランスがよい株。

## 3 本圃準備

### (1)栽植様式

畦幅210cm、株間70cm、1条植えで、10a当たり680株程度とする。

### (2)施肥

堆肥は、2t/10aを1月下旬までには入れておく。

### 施肥量 (kg/10a)

	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	備考
基 肥	20	20	15	完熟堆肥2t
追 肥	30	25	20	炭酸苦土石灰200kg
全 量	50	45	35	硫酸マグネシウム20kg

### (3)畦づくり

土壤水分が適当な時は、施肥、耕起後、畦をつくり畦表層を軽く押さえてシルバー又は白黒マルチを密着敷設する。

## 4 定植

植穴に土壤施薬をして定植する。

定植は晴天日に行い、植え付け前日か半日前に育苗鉢に200~400倍の液肥を施しておく。植え付けは浅植えとし、定植後は灌水を行い活着を促進する。

## 5 支柱立て

定植が終わったら、早めに仮支柱を立てる。その後、枝の発生に伴い誘引支柱を立てていく。



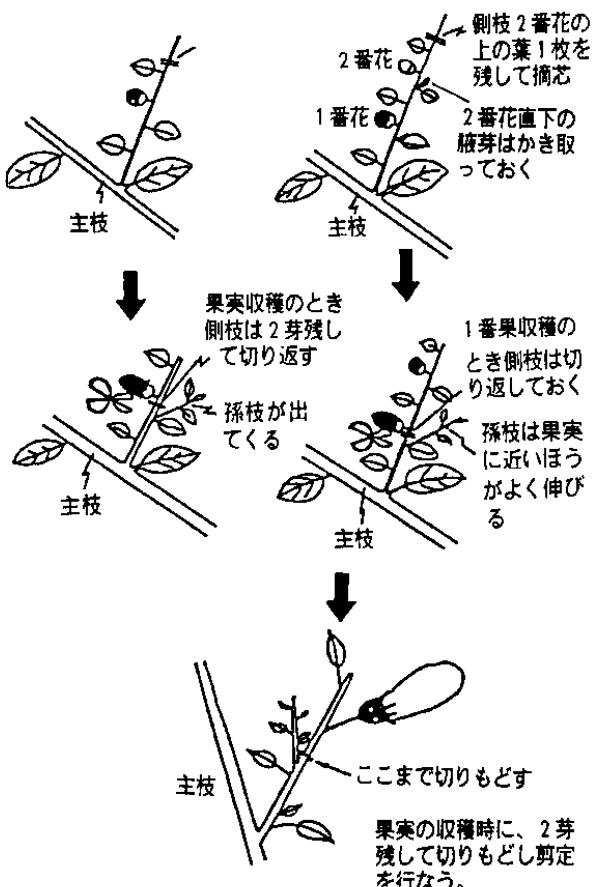
栽培風景

## 6 整枝

4本仕立てを行う。仕立て方は、頂芽と第一花の下の側枝を2芽、第2花着果頃に発生する勢いの強い側枝を選定し仕立てていく。

### 側枝の摘芯の仕方

#### 切りもどし剪定の方法



## 7 摘葉

摘葉は、下位部に光が当たるよう計画的に古葉を摘み取るが、生育が過繁茂になってきたら、果実に

光が当たるよう適当に摘葉を行う。

草丈が、1. 8 m程度になったら主枝を摘心し、以降は側枝利用を主体として採光をはかるため不要な茎葉は摘除する。



葉陰ができないように誘引を行う

## 8 収穫

収穫は、県の青果物出荷規格に基づき行うが、若穫りを基本とする。